

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

スポーツコミッション大館によるスポーツツーリズムの推進と交流を生むまちづくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

秋田県大館市

3 地域再生計画の区域

秋田県大館市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

令和3年3月にスポーツコミッション大館を設立以降、スポーツツーリズムによる交流人口の拡大と地域活性化、障害者スポーツの普及と市民の運動機会の創出を進めていくなかで、これらを実現していくために次の点が課題として浮かび上がった。

【アウターの課題】

(1) アウトドアアクティビティの開発

昨今アウトドアアクティビティの人气が高く、スポーツツーリズムに取り入れていくことは誘客に有効であると考えている。その中でも自転車によるサイクルツーリズムは大館市とその周辺地域の自然景観や史跡、温泉資源を活かしたアウター向けのアウトドアアクティビティとして有望であることから、開発に向けて取り組んでいくが、そのノウハウ等の構築が課題となっている。

(2) スポーツイベントでの観光消費の低さ

スポーツイベント参加者の観光消費額が低く、特に1日開催のスポーツイベントでは参加者が日帰りとなることから地域経済に寄与していないことが以前からの課題となっている。例として、市外からもランナーが参加する山田記念ロードレースは1日開催で競技志向が強くイベント要素がないため、2019年（コロナ以前）に1,379人の参加があったが、宿泊者は約65人で5%に満たず、直接経済効果は約40万円、波及効果も約70万円であったと推定される。

スポーツイベント参加者をターゲットとした宿泊や飲食、観光など地域経済に寄与するような新たな仕組みづくりが課題となっている。

(3) 観戦型スポーツの課題

スポーツコミッション大館は県内のトップスポーツチーム、バスケットボールBリーグの秋田ノーザンハピネッツ、同じくバスケットボールWリーグに新規参入したアランマーレ秋田、サッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田、ラグビートップイーストリーグの秋田ノーザンブレッツと連携パートナー契約を締結し、様々な事業連携を模索している。そのなかで、大館市での観戦型スポーツイベントは、秋田ノーザンハピネッツのBリーグ公式戦2試合（2日間開催）が行われており、2020-21シーズンは2,279人の観客を動員、大館市内に698件の宿泊があり約418万円の経済効果と約700万円の波及効果があった。

しかし、秋田ノーザンハピネッツは2026年に開幕予定の新B1リーグへの参入を目指しており、大館市樹海体育館では収容人数が規定を満たさないことから、2022-2023シーズン以降の公式戦は開催されないこととなった。スポーツツーリズム推進の点から、また市民にとっての「みる」スポーツの機会確保の点からも、代替の観戦型スポーツイベントをいかにして誘致するかが課題としてあがってきた。

(4) スポーツツーリズムへの理解不足

アウターへの課題解決には、地域住民、特に観光・サービス事業者のスポーツツーリズムに対する理解が重要である。

現状では、スポーツイベント主催者は来客数などの情報を観光・サービス事業者に提供しておらず、観光・サービス事業者もスポーツイベントの情報収集を行っていない。スポーツへの取り組みと観光への取り組みが連携していないことがスポーツによる観光消費の低さにつながっている。地域にスポーツツーリズムの概念が根付いていないという課題がある。

【インナーの課題】

(1) 市民のスポーツへの取り組み状況

令和2年度全県体力テスト・スポーツ実態調査（大館市データ）によると、週1回以上スポーツをする20歳～79歳の市民の割合は58.0%（男性55.8%、女性60.2%）となっている。これは全国平均の59.5%を下回るものの、平成28年度の41.3%からは大幅に上昇しており、東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業への取り組みやSNSを活用した運動情報の提供などによる効果であると考えている。ただ、1年間1日もスポーツをしなかった人も1割程度おり、その理由に着目してみると、「仕事や家事が忙しいから」と回答した人の割合が最も多く、また、30歳代から40歳代では「子どもに手がかかるから」と回答した人が多かったことから、壮年期の日常的なスポーツ習慣の確立が課題となっている。

(2) 小中学生のスポーツ活動

一部の総合型スポーツクラブを除き、学校部活動を母体としたスポーツ少年団は常に指導者の確保に苦慮している状況である。指導者が短期間で変わることによって一貫した指導がなされず、競技力の低下が課題となっている。

さらに、学校部活動の地域移行も進められていることから、継続的に高いレベルの指導を受けられる体制づくりが課題となっている。

(3) スポーツ競技団体の存続

多種多様なスポーツ活動を市民が行うためには、競技団体の存続が不可欠であり、競技団体存続には競技者（人口）のすそ野の拡大が必要である。競技を始めるきっかけとして幼少期の競技経験が影響すると言われていたことから、小中学生が多くのスポーツ種目を経験する必要がある。

令和4年度、大館市スポーツ協会に所属する競技団体は24団体23種目（会員数約2,500名）、スポーツ少年団は50団体15種目（団員数1,285名）、市立中学校部活動は8校61チーム11種目（部員数1,009名）となっている。スポーツ競技団体の種目数より小中学生が行っている種目が少ないことから、スポーツ競技団体のすそ野の拡大（競技普及）を効果的に行うことが課題となっている。

(4) 中学生のスポーツ実施率低下の懸念

中学校部活動の地域移行に伴い、一部の中学校では部活動入部について積極的な指導を行っていないことから、中学生のスポーツ実施率低下が懸念される。

令和4年度の市立中学校（8校：生徒数1,443人）の部活動所属生徒は、スポーツ部1,009人（70%）、文化部が267人（18%）となっており、中学生のスポーツ実施率を今後どの様に維持するかが課題となっている。

(5) ユニバーサルスポーツの推進への課題

東京2020パラリンピックでタイ王国ボッチャチームの事前合宿地となったことで市民の関心を集め、ボッチャの普及が徐々に拡大している。新型コロナウィルス感染症拡大の影響により事前合宿は直前で中止となったが、市民を巻き込んだ応援による交流が盛り上がり、さらにタイ王国チームが団体で金メダルを獲得したことで閉幕後もボッチャへの関心が高まっており、この機を逃さずにどのようにしてボッチャを根付かせていくか、生活活動様式及びスポーツ施設の構成を勘案した実施可能なスタンダード・プログラム（ボッチャを手軽に行う環境）を作り上げていくことが課題となっている。

(6) 情報発信の課題

コロナ状況下で子どもの試合を観戦することができなかった保護者から多くの落胆の声が聞かれた。その反面、SNSによるライブ配信や動画サイトでの試合配信が急速に普及したことで、地区大会レベルの試合でも配信が行われるようになり、ウィズコロナ・ポストコロナ時代のニューノーマルとして、スポーツ施設には「試合配信」という利便性が求められるようになった。また、地域のスポーツ活動や健康づくりについて（自分たちの活動紹介も含めて）動画での情報提供（情報共有）が市民に求められている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

令和元年12月に閣議決定された「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「スポーツ・健康まちづくり」という項目が新たに創設されたことを受け、スポーツ庁では、スポーツの力を活用して、地域の諸課題を解決するための取り組みを将来に向かって継続、定着させていくことを目指すとしており、これを踏まえ、大館市では第2次新大館市総合計画後期基本計画において、スポーツを通じた地域活性化やスポーツツーリズムによる交流促進のための官民連携組織「スポーツコミッション」の設立を掲げ、アウターへの取り組みとして新規大型スポーツイベント等の誘致、インナーへの取り組みとして市民の健康づくりを目的としたスポーツイベントの実施に取り組むことを明記している。具体的には、県内のトップスポーツチームや企業との共同企画等により集客力の高いイベントの開催を実現する。一方で、市民を対象とした小規模イベントの開催やスポーツ・レクリエーション活動の推進により市民が自らスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを目標に、だれもがスポーツが楽しむことができる環境を整える。これらを実現するため、令和3年3月、官民連携組織「スポーツコミッション大館」を設立し、従来のスポーツ振興だけではなく、スポーツの力による社会的効果、経済的効果を創出するための取り組みを始めたところである。

また、令和4年6月6日に学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」がスポーツ庁長官に手交され、学校部活動の地域移行に伴う現状と課題が示された。部活動の地域移行は中学校だけの問題ではなく、中学生の部活動の受け皿整備に端を発した地域全体のスポーツ環境の問題であると捉えることができる。部活動の地域移行を契機として、全ての市民にスポーツ・運動の機会を提供する持続可能なシステム構築への取り組みが求められていることから、大館市とスポーツコミッション大館は連携して次の取り組みにより地方創生を目指す。

【アウターへの取組：スポーツツーリズムの推進による交流人口の拡大と地域活性化】

スポーツの持つ力を活用して地域への経済波及効果を高めるため、大型スポーツ施設を活用したスポーツ大会・イベント誘致による交流人口の拡大と自然・食・文化などの地域資源を活かした観光連携イベントによる地域経済の活性化を実現する。

スポーツコミッション大館は関係団体等との連絡調整を行い、スポーツツーリストに対してワンストップサービスを実施する。

【インナーへの取組：持続可能な市民の運動機会の創出とユニバーサルスポーツの普及】

①市民のスポーツ・運動機会の提供

スポーツと運動を通じて、市民の心身の健康や生きがいづくり、人と地域の交流に繋がる取り組みを促進し、健康寿命の延伸による生涯活躍のまちをつくる。

②小中学生のスポーツ活動支援

専門指導者による多種多様なスポーツ体験機会の提供、ケガのないトレーニングに関する情報提供などサポート環境を整え、小中学生のスポーツ活動活性化を図る。

③ユニバーサルスポーツの普及

東京オリンピック・パラリンピックにおけるタイ王国ボッチャチームとの交流、心のバリアフリーへの取り組みなどが評価され、令和2年に先導的共生社会ホストタウンに認定されている。この取り組みを継続し「大館市＝ボッチャ」のイメージを作り上げ、ボッチャによる都市間交流、普及拡大に繋げ、交流人口の増加と「誰もが暮らしやすいまち＝ユニバーサルデザインのまちづくり」を推進し、人口流出抑制と地域活性化に繋げる。

【AIカメラによる試合配信、動画共有サイトやSNSを活用した情報発信】

AIカメラ、動画共有サイトやSNSで、市内で開催されているスポーツ大会の試合、スポーツイベントの様子、スポーツ少年団やサークルの活動状況を配信することで市民のスポーツと健康づくりへの関心を高める。また、スポーツ情報の発信をスポーツ合宿やスポーツ大会・イベントの誘致につなげ、新たな交流の創出でまちに賑わいと経済効果をもたらす。

【数値目標】

K P I ①	スポーツツーリズムによる誘客							単位	人
K P I ②	スポーツ合宿及びスポーツ大会等による宿泊数							単位	泊
K P I ③	友好都市との交流事業関係人口の拡大							単位	人
K P I ④	スポーツ実施率							単位	%
	事業開始前 (現時点)	2022年度 増加分 (1年目)	2023年度 増加分 (2年目)	2024年度 増加分 (3年目)	2025年度 増加分 (4年目)	2026年度 増加分 (5年目)	2027年度 増加分 (6年目)	K P I 増加分 の累計	
K P I ①	2,700.00	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00	-	2,500.00	
K P I ②	172.00	128.00	300.00	400.00	400.00	400.00	-	1,628.00	
K P I ③	50.00	20.00	30.00	40.00	40.00	40.00	-	170.00	
K P I ④	58.00	2.00	2.00	3.00	3.00	3.00	-	13.00	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

スポーツコミッション大館によるスポーツツーリズムの推進と交流を生むまちづくり

③ 事業の内容

【アウトターに対する取り組み】

(1) アウトドアアクティビティの開発

アウトドアアクティビティ開発の課題については、自転車を活用したサイクルツーリズムへの取り組みとして、ロードバイクは2022年度にサイクルイベント実施計画の作成、2023年度にサイクルイベントのテストイベントを実施したところである。マウンテンバイクについても2022年度にアクティビティのメインフィールドとなる田代岳山麓の調査及びマウンテンバイクを活用したアクティビティ案を作成、2023年度にはアクティビティ案を野遊びSDGsワーキンググループメンバーと実際に行った。ロードバイクとマウンテンバイクを活用したアクティビティについて一定のノウハウの構築はできたものとする。2024年度はノウハウを活かしてイベントの開催やビジネスモデル構築への取り組みなど実働に移していく。

<自転車を活用したスポーツツーリズム推進>

① ロードバイク サイクルイベントの開催

ニプロハチ公ドームを起点とし、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）と大湯環状列石（鹿角市）の縄文遺跡を含む広域的なロードバイクのコース設定とファンライドイベントの計画を策定する。北東北の中央に位置する大館市をサイクルツーリズムの促進拠点とするとともに宿泊を伴う滞在型の広域的な誘客拠点とする。

サイクルイベントの実施計画作成とともにサイクル観光を呼び込むためのターゲットング、地域資源の調査を行い、持続可能な観光コンテンツとしてサイクルイベントを開催する。内外に向けてサイクリングコース完成の発信を主な目的とした「1日型イベント」と、サイクル観光をシーズン中いつでも受け入れることが可能な「期間型イベント」を同時に開催する。1日型イベントの開催時には、発着点のニプロハチ公ドームを会場にサイクリング企業の出展展示を行いサイクルビジネスによる誘客や関係人口の拡大にも取り組む。

② マウンテンバイクによるアクティビティ商品の開発

田代岳県立自然公園の五色湖（山瀬ダム湖）周辺には、岩瀬川、板沢、繋ノ沢、内町沢の4つの溪流（沢）が林道に沿って流れていることから林道をコースとして活用する。このエリアは五色湖ロッジと五色湖キャンプ場を中心に、地域再生計画「野遊びSDGsプロジェクトの推進」によりグランピング場の整備計画が進められていることから、グランピング客をターゲットとしたアクティビティとしてもマウンテンバイクのコース整備は相乗効果を発揮することが期待できる。地域住民参加の「野遊びSDGsワーキンググループ」と連携して、マウンテンバイクを活用した自然観察ツアーなどのアクティビティ商品の開発とともにビジネスモデルの構築に取り組む。

(2) スポーツイベントでの観光消費額増加

<山田記念ロードレース サイドイベントによる観光消費額の増加>

スポーツイベントでの観光消費の低さという課題については、サイドイベントの実施により観光消費額の増加を図る。スポーツイベントと観光をかけ合わせた滞在型スポーツツーリズムを推進するため、1日開催のイベント（競技会）であってもサイドイベントを開催することで参加者が宿泊（前泊）する理由づけを行う。既に大会運営ノウハウがある山田記念ロードレース大会の「サイドイベント開催」を軸として、宿泊を伴う県外ランナーを誘客して観光消費額の単価アップに取り組むとともに、地元店の会場出店を促し、「地元のお菓子や食」のアピールと会場内販売によるダイレクトな観光消費額の増加も図る。

(3) 観戦型スポーツの誘致

観戦型スポーツの課題については、スポーツコミッション大館の事業パートナーであるバスケットボールBリーグ加盟の「秋田ノーザンハピネッツ」とバスケットボールWリーグ加盟の「アランマーレ秋田」の全面的な協力を得て、2023年度に男子バスケットボール天皇杯2次ラウンドを誘致、3日間の開催で7,600人の観客があり1,240人の宿泊があった。2024年度についても同チームで天皇杯の大館市開催の誘致活動を行っており、天皇杯の誘致がなかった場合でもプレシーズンマッチの開催を予定している。また、女子バスケットボールWリーグ公式戦アランマーレ秋田ホームゲームが2022年度に開催され、2023年度についても3月に開催が決定しており今後もレギュラー開催地とすることが予定されている。バスケットボールの1種目であるが観戦型スポーツによるスポーツツーリズム推進と市民への「みる」スポーツの提供に一定の目途がついたと考えることができる。

（４）スポーツツーリズムへの理解不足への対応

スポーツコミッション大館と観光・サービス事業者との協力関係の構築に取り組む。スポーツツーリズムを理解する動機づけとして「スポーツによる売上」について関心を高めることが必要であることから、スポーツイベントの来客数や宿泊見込み数などの情報を提供するとともに観光・サービス事業者の現状の聞き取りなど情報交換を通じてスポーツツーリズムへの理解を深めてもらう啓発活動に取り組む。

【インナーに対する取り組み】

（１）市民のスポーツへの取り組み状況「壮年期の日常的なスポーツ習慣の確立」

壮年期の市民は個人で体力テストに参加することが少ない傾向にあるため会社ぐるみで参加する「企業向け体力テスト」を実施してスポーツ・健康づくり教室への参加を促す。

（２）小中学生のスポーツ活動及び （４）中学生のスポーツ実施率低下の懸念

地域のスポーツ競技団体や地域在住のインストラクターが行うスポーツ教室による一貫した指導による競技力の向上を図るとともに、中学生については部活動の枠組みにとられない多種目の競技を経験する機会の提供に取り組む。また、著名講師等によるスポーツ教室の開催でスポーツに対するモチベーションの向上を図る。

（３）スポーツ競技団体の存続

競技を行う選手の有無がスポーツ競技団体の存続に直結することから、スポーツ教室を通じて小中学生に競技の体験機会を提供して競技普及と団員（会員）の増加を図る。また、スポーツ競技団体が教室実施による指導スキルの向上に取り組むことによってスムーズな部活動の地域移行に備える活動をサポートする。

（５）ユニバーサルスポーツの推進

ポッチャ出前講座による競技普及と定例交流会や大会の開催による市民への競技の浸透を図る。

<スポーツ実施率向上のための環境づくりとスポーツ交流の促進>

① スポーツ・健康づくりの習慣化

体力テストやスポーツテスト実施時に、体成分分析装置を使用した身体状態（脂肪量・筋肉量など）の見える化によるスポーツ・健康づくりを始める動機づけを行う。スポーツ・健康づくりの受け皿として、地域のスポーツ競技団体や地域在住のインストラクターによる教室、特別なスキルを必要としないランニング集会を実施する。

② スポーツ教室や講習会による競技力向上と交流の促進

特に小中高生を対象に、スポーツへのモチベーションの向上を図るために県内トップスポーツチームや著名講師によるスポーツ教室を行う。また、現役アスリートやアスリートのセカンドキャリアを活用した合宿型講習会で他県選手との交流を通じた競技力の向上を図る。あわせて、子どもたちの成長に重要な指導者講習会の実施にも取り組む。

③ ポッチャを通じた共生社会への理解と交流の促進

ユニバーサルスポーツのポッチャによるスポーツインライフの推進と誰もが安心して暮らすことのできる共生社会への理解を広める。定例交流会の実施や他県からも出場がある大会の開催を通じて地域間交流の促進を図るとともに「ポッチャのまち」のシティブランドの定着に取り組む、交流人口や関係人口の拡大につなげる。

【アウトター及びインナーに対する取り組み】

（６）情報発信について

<ＡＩカメラ及び動画共有サイト活用による情報発信とスポーツ合宿や大会の誘致>

スポーツ施設に設置したＡＩカメラで試合を配信「いつでも、どこでも」家族や知人が出場しているスポーツ大会を観戦できる環境をつくり市民のスポーツへの関心を高めるとともに、ＡＩカメラの利便性を活かした合宿や大会の誘致を図る。また、動画共有サイト「スポーツチャンネル大館」で市民のスポーツ活動や大館開催のスポーツイベントの情報を発信し、市民の間のスポーツ情報の共有をサポートするとともに、全国に向けた大館市の知名度向上とスポーツのまち大館のブランディングを図る。

あわせて、スポーツ情報の発信をふるさと納税と企業版ふるさと納税のＰＲ（営業活動）として位置づけ「情報発信 × ふるさと納税 = 大館のスポーツ支援」の関係性構築を図るとともに、即時性の高いＳＮＳの活用も積極的に行いながら情報発信を通じた自主財源確保としての企業スポンサー獲得に取り組む。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業はスポーツによる地域活性化を推進する事業であることから、サービスの受益者に対して相応の負担を求めていくことにより、本事業による「稼ぐ力」を高め、計画の延長期間（2025年度及び2026年度）に次のとおりビジネスモデルの構築に取り組み、事業推進主体であるスポーツコミッション大館の補助金に頼らない事業の自走化を目指す。

【人材の確保と育成】

① 企画運営人材の確保と育成

各種事業の企画や資金調達（プロデューサー業務）と事業運営（ディレクター業務）を担う人材の確保と育成に取り組む。

② ガイドの育成

サイクリング観光客などの体験型スポーツツーリズムの現場で地域の魅力を観光客に伝える人材の育成に取り組む。

③ インストラクター（指導者）の確保

市民の健康づくりやスポーツ活動の受け皿となる地域在住インストラクターの確保に取り組む。

【イベントや受入体制の品質向上】

① イベント品質の向上

スポーツツーリストのニーズを的確にとらえたプログラムの提供や円滑な運営によるイベントの品質向上に取り組む。あわせて、柔軟な発想でイベントの品質を低下させることなく経費の縮減に努める。

② 受入体制の品質向上

スポーツツーリストを受け入れるハード（スポーツ施設や宿泊施設）とソフト（サービス・ホスピタリティ）の品質向上に取り組む。

【事業資金の調達】

イベント等の出店料、大会参加料、映像販売料などの事業に直接関わる人たちからの資金調達に加えて、民間資金の調達に取り組む。

① 協賛パッケージの設定による事業収入の確保

大館市のスポーツ・健康づくり事業全体（複数イベント）に対して、多様な協賛メニューや協賛の方法を企業が選択することが可能な「協賛パッケージ」を設定して協賛募集活動を行い事業収入の確保に取り組む。

② 企業CSRに目を向けた事業（イベント）内容の設定

企業のCSR活動（企業の社会的責任を果たす活動）の内容と大館市のスポーツ・健康づくり事業の内容が重なる部分を多くつくり、企業が協賛しやすい事業（イベント）づくりに取り組む。

③ 参加料についての啓発活動

受益者負担（参加料の徴収）の啓発に取り組み、スポーツ・健康づくり教室等のサービス提供型事業の開催コストを踏まえた適正な参加料の設定について市民の理解を得る。

【情報の収集と発信】

上記の3つの取り組みを実践するため、先進事例の情報収集や大館市の取り組みの発信が必要であるため、情報が集まる場所や機会の有効活用とデジタル技術を活用した情報発信に取り組む。

【官民協働】

官である市と企業等の民、そして官民連携組織である「スポーツコミッション大館」が連携して、市民やトップスポーツチーム等を巻き込みながら「スポーツツーリズムの推進と交流を生むまちづくり」に取り組む。

【地域間連携】

- ・当市を含む近隣の2市1町1村で構成している地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」と連携してスポーツツーリズムの推進に取り組んでいく。
- ・東京都渋谷区との交流促進協定（R4.2）により観光・スポーツについての連携を深める。
- ・自転車を活用したスポーツツーリズム推進において、コースとなる北秋田市・鹿角市・小坂町及び秋田県北秋田地域振興局・秋田県鹿角地域振興局と連絡会を組織して情報共有と事業連携を図り、サイクリングを通じた観光客誘致活動に取り組んでいる。

【政策・施策間連携】

『おおだて未来づくりプラン』（令和6年度～9年度）の施策「地域の宝を活かす観光振興」、「みんなで取り組む健康づくり」、「共に支え合う社会の実現」の担当部署との連携・協働により事業を行いスポーツによる地方創生、まちづくりに取り組む。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組①

大会会場となるスポーツ施設にA Iカメラを設置して試合を配信。市民が「いつでも、どこでも」自分の家族や知人が出場しているスポーツ大会を観戦できる環境をつくり市民のスポーツへの関心を高める。

試合を配信するSNSや動画チャンネルを立ち上げることで、全国に大館市のスポーツへの取り組みを発信し、大館市の知名度向上、スポーツのまち大館のブランディングを行う。スポーツ情報の発信をふるさと納税・企業版ふるさと納税のPRとして位置づけ大館のスポーツの支援者を全国につくる。

理由①

コロナ状況下で、無観客試合や観客数の制限が行われ、子どもたちの試合を観戦することができなかった保護者から落胆の声が多く聞かれた。地方では子どもの試合の観戦は、子育て世代のスポーツへの関心と「ささえるスポーツ」の原動力となっており、市民のスポーツ実施率に影響を及ぼすことから、いかなる形であっても観戦機会の確保は重要である。

無観客試合や観客数の制限により、A Iカメラの無人撮影、SNSのライブ配信、動画サイトでの配信などデジタル技術の活用が急速に進み、最近では高校スポーツの地区予選なども配信されている。スポーツ施設へのデジタル配信設備の設置は、ポストコロナのニューノーマルとして利用者から求められている。

取組②

該当なし。

理由②

取組③

該当なし。

理由③

⑤ **事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））**

4－2の【数値目標】に同じ。

⑥ **評価の方法、時期及び体制**

【検証時期】

毎年度 9 月

【検証方法】

大館市総合計画及び総合戦略推進懇談会において検証を行う。

【外部組織の参画者】

産業界、国・県・市、大学、金融機関、労働団体

【検証結果の公表の方法】

議会、市ホームページ、広報誌等で公表する。

⑦ **交付対象事業に要する経費**

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 155,642 千円

⑧ **事業実施期間**

2022年4月1日 から 2027 年 3 月 31 日 まで

※企業版ふるさと納税との併用による事業実施期間延長適用

⑨ **その他必要な事項**

特になし。

5－3 その他の事業

5－3－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5－3－2 支援措置によらない独自の取組

(1) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日 まで

(2) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日 まで

(3) 該当なし。

ア 事業概要

イ 事業実施主体

ウ 事業実施期間

年 月 日から 年 月 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2027 年 3 月 31 日 まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2 の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2 に掲げる目標について、5-2 の⑥の【検証時期】に
7-1 に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2 の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。